



えひめ名建築発掘
発信シンポジウム



2

えひめ、

建築の
これから



4



3

EHIME
ARCHITECTURE
SYMPOSIUM



5



6

一戦後建築から愛媛の未来を考える

これから

2020年 11月7日 土

13:00~16:00 (開場 12:30~)

会場: 愛媛県県民文化会館 サブホール (松山市道後町2-5-1)

定員: 250名 要事前申込 (先着順/締切11月2日) **入場無料**

主催: 愛媛県、一般財団法人自治総合センター
後援: 総務省、公益財団法人愛媛県文化振興財団、愛媛大学、一般社団法人日本建築学会四国支部、公益社団法人日本建築家協会四国支部、一般社団法人愛媛県建設業協会、公益社団法人愛媛県建築士会、一般社団法人愛媛県建築士事務所協会、公益財団法人えひめ地域政策研究センター

お申込み・お問合せ: 愛媛県 スポーツ・文化部 まなび推進課
tel: 089-947-5622 fax: 089-913-2617 mail: manabisuishin@pref.ehime.lg.jp

プログラム

- 13:00- あいさつ
- 13:10-14:10 基調講演「自然が蘇る建築」
伊東 豊雄 氏
- 14:20-14:40 スライド上映「えひめの建築めぐり」
- 14:40-16:00 パネルディスカッション
コーディネーター 曲田 清維 氏
パネリスト 伊東 豊雄 氏
松隈 洋 氏
花岡 直樹 氏
宮畑 周平 氏

愛媛県では、2019年度から県の歴史や地域を象徴する建築の調査等を実施する「えひめ名建築発掘発信事業」に取り組んでいます。2021年春には、戦後建築を中心とした現地調査等の成果をデータベースとして公開予定であり、地域の貴重な資源である建築に県内外から接続しやすい環境を整備することで、建築がもつ力がまちづくりや観光へと反映されていくことを期待するものです。

本シンポジウムでは、2010年に今治市伊東豊雄建築ミュージアムを設立し、地方における建築の可能性に着目し、「大三島プロジェクト」を展開し

ている世界的建築家の伊東豊雄氏をはじめとして、県内外の建築の保存や活用に携わってこられた本事業の検討委員会委員を講師としてお招きします。講演やパネルディスカッションにより、「愛媛の建築のこれまでとこれから」について、新しい生活様式の中、人々の暮らしにおける建築の大切さについて考える機会となることを目指して、愛媛に優れた戦後建築をのこした丹下健三設計の愛媛県県民文化会館を会場に開催いたします。

建築について、まちについて、暮らしについて、ともに感じ、考える場となりますよう、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

登壇者プロフィール



伊東 豊雄 (Ito Toyoyuki / 1941-)

建築家、伊東豊雄建築設計事務所代表

東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」「みんなの森 ぎふメディアコスモス」、県内の作品に「ITM本社ビル」「今治市伊東豊雄建築ミュージアム」など。日本建築学会賞作品賞、ヴェネチア・ビエンナーレ「金獅子賞」、王立英国建築家協会(RIBA)ロイヤルゴールドメダル、ブリツカー建築賞、UIAゴールドメダルなど受賞。2018年文化功労者。



曲田 清維 (Magata Kiyotada / 1949-)

愛媛大学名誉教授、同大学社会連携推進機構客員教授

京都大学工学部建築学科卒業。住居学・建築計画学を専門とし、1983年に愛媛大学助教授、1994年より教授、2015年から現職。2009年から日本建築学会愛媛支部長。2012年八幡浜市立日土小学校の保存・再生について建築家コンソーシアムの一員としてノールモダニズム賞及び日本建築学会賞受賞。



松隈 洋 (Matsukuma Hiroshi / 1957-)

建築史家、京都芸文繊維大学教授

京都大学工学部建築学科卒業。前川國男建築設計事務所を経て2000年京都芸文繊維大学助教授、2008年から現職。2015年から2018年までDOCOMOMO Japan代表。2019年「建築の前夜 前川國男論」(みすず書房)で日本建築学会賞(論文)受賞。また、前川國男、村野藤吾、坂倉準三、丹下健三、浦辺鎮太郎ら近代日本建築家の展覧会を多数企画。



花岡 直樹 (Hanaoka Naoki / 1958-)

(公社)愛媛県建築士会理事 / 文化財・まちづくり委員

九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。設計事務所勤務を経て2000年に独立開業。古建築の調査研究、文化財の保存修理工事や防災工事の設計監理を手掛けている。県内では、道後温泉本館や萬翠荘の保存修理工事の設計監理、松山城本丸や岩屋寺などの防災工事の設計監理を担当。



宮畑 周平 (Miyahata Shuhei / 1977-)

編集者・写真家・ライター、瀬戸内編集デザイン研究所代表

甲南大学経済学部卒業後、ニュージーランド遊学、商社勤務を経て桑沢デザイン研究所スペースデザイン科入学。編集事務所勤務後、2011年弓削島に移住。翌年瀬戸内編集デザイン研究所(セトヘン)を立ち上げる。建築を専門としながら、瀬戸内地域の魅力発信にも取り組む。写真展「Shimanami Perspectives」(2018・東京)など。



1. 奥道後 壱湯の守本館 1969年 設計: 根津耕一郎
2. 別子銅山記念館 1975年 設計: 白建設
3. 7. 西条栄光教会(幼稚園) / (礼拝堂) 1951年 設計: 浦辺鎮太郎
4. 8. ITM本社ビル 1993年 設計: 伊東豊雄
5. 9. 今治市公会堂 1958年 設計: 丹下健三
6. NTT愛媛支店ビル(旧四国電電ビル) 1962年 設計: 日本電信電話公社

申込方法

締切: 2020年11月2日(月) ※先着順

必要事項(参加者全員のお名前・ご住所・電話番号)をご記入の上、下記までお申し込みください。

FAX: 089-913-2617

E-mail: manabisuishin@pref.ehime.lg.jp

※ご提供いただきました個人情報は、本シンポジウムに関してのみ使用いたします。

同時開催

写真パネル展「えひめの建築に出会う」

写真家・宮畑周平が愛媛県の歴史や地域を象徴する戦後建築の今をとらえた写真を一堂に展示します。(入場無料)

■ 愛媛県県民文化会館サブホール内

2020年11月7日(土) 13:00 - 16:00

■ 愛媛県美術館 新館2階 特別展示室(松山市堀之内)

2020年10月29日(木) - 11月11日(水) 9:40 - 18:00

※休館日 11月4日(水)、11月9日(月) ※11月7日(土)は閉室



- ・愛媛県県民文化会館には無料の駐車場はございません。また、有料駐車場は台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関等をご利用ください。【JR松山駅・松山市駅・松山空港から】
- ・伊予鉄市内電車(道後温泉行)「南町・県民文化会館前」下車すぐ
- ・伊予鉄バス(道後温泉駅前行)「南町・県民文化会館前」下車すぐ

新型コロナウイルス感染防止対策にご協力をお願いします。

・マスクの着用・入場口での手指消毒、検温実施・3密回避・体調不良の方、帰国後2週間を経過していない方はご入場をお控えください。
※新型コロナウイルスの感染状況により、開催中止または開催方法を変更させていただく場合がありますので、予めご了承ください。